

平成29年10月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成29年10月24日 (火)		
2 開会及び閉会	開会	13時00分	
	閉会	13時20分	
3 出席委員	教 育 長	菅 野 和 良	
	委 員	奥 津 晋	
	委 員	塩 田 澄 子	
	委 員	藤 原 佳 代 子	
	委 員	石 井 希 典	
4 会議出席者			
職 名	氏 名	職 名	氏 名
教育次長	安 田 充 年	教育次長	天 野 和 弘
統括審議監 (企画調整担当)	小 西 洋 史	審議監 (学校教育担当)	三 宅 泰 司
審議監 (社会教育担当)	澤 岡 哲 雄	審議監 (企画総務担当) (教育企画総務課長事務取扱)	村 田 守
審議監 (生涯学習担当)	近 藤 康 彦	教育企画総務課企画調整担当課長	杉 原 光 治
指導課長	岡 林 敏 隆	生涯学習課課長代理	安 東 信 哉
教育企画総務課課長補佐	花 房 明 彦	地域子育て支援課副主査	白 石 勲 生
事務局 (教育企画総務課課長補佐)	生 田 裕 宣	事務局 (教育企画総務課指導副主査)	林 俊 雄
5 議題及び結果			
なし			
6 教育長等の報告 [平成29年9月16日 (土) ~平成29年10月13日 (金)]			
9/22	教育長学校訪問	教育企画総務課	
9/27	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、保育・幼児教育課	
9/27	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課	
9/27	教育長学校訪問	教育企画総務課	
9/28	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、保育・幼児教育課	
9/28	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課	
9/28	英語教育推進指定校授業研究会	指導課	
9/29	教育長学校訪問	教育企画総務課	
9/30~10/1	自然体験リーダー養成講座 step2	地域子育て支援課	

10/2	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
10/4	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
10/4	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
10/5	教育長学校訪問	教育企画総務課
10/6	教育長学校訪問	教育企画総務課
10/7	地区公民館を支えるこれからのあり方～公民館の明日を考え る 市民ワークショップ～	生涯学習課
10/11	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
10/13	教育長学校訪問	教育企画総務課

石井委員	○ 今年度から、教育長はかなり多くの学校を訪問されているが、状況等で気が付かれたことがあれば教えていただきたい。
教育長	○ 9月からもかなりたくさんの学校を訪問したが、今年訪問予定の学校が40校近くあるので、やっと半分を超えたぐらいだ。中学校には、東山中、芳田中、それから中山中と行ったが、以前、自分自身が思っていた中学校のイメージと比べて非常に変わってきたと感じる。それは、簡単に言うと、中学校は生徒指導と部活がメインだという感覚で、例えば、授業研究をしようとしても、もし何か生徒指導事案が起きたら、そっちのけで生徒指導にかかるという印象があった。しかし、今はそうではなくて、授業研究を一旦やろうと決めたら、生徒指導事案にもよるが、生徒指導よりも優先して学年団を中心に授業研究をしている。もちろん生徒指導は生徒指導で、また別の機会を捉えてやるという考えが浸透してきている。授業の研究をし、良い授業をしていこうとすると、やはり一人一人の子どもに目を向けていかなければならない。その一人一人の子どもに目を向けていくことが、学年団なり授業の研究の中に出てくると、実はそこで生徒指導ができていて、そういった風潮、中学校の動きが出てきたというのが、私自身が大きな変化として捉えているところである。
	それから中学校の授業は、ともすれば先生が黒板を背に、一斉授業で講義形式の授業が多かったように思うが、それも確かにまだ多いのだが、学級で普通の授業で、いわゆる理科とか技術家庭とか美術ではなくて、普通の授業でグループ学習を取り入れたり、最初から机をコの字型にして対面方式で授業をしたり、授業の形を変えて取り組んでいる先生も増えてきたと感じている。形から入ることだけが良いことではないが、そういう工夫の表れが出ているし、生徒に黒板を使って発表させるなど、いわゆるアクティブラーニングのような工夫も見られる。学校を訪問しても全クラスの授業を1時間ぐらいしか見られないが、そういった工夫をしている先生がたくさん見られたことは、大分変わりつつあると感じる。
	それから、キャリア教育の取組については、中学校のキャリア教育は非常に難しいと感じた。職場体験はあるが、普通の授業の中でキャリア教育をしていくのは、いろいろな課題があるという発見があった。小学校とはちょっと違うと思った。
	それから、大綱に関することで、小学校は当然落ち着いた授業がされていたが、不登校とか暴力行為が、中学校は減少傾向にあるのに小学校の場合は増加傾向にあることについての対応はどうかということをどの学校でも聞いている。暴力行為については、本当に一部の子が何回も繰り返してやっていて、それで数が増えているという残念な結果だが、不登校については原因がわからず校長も頭を抱えている。きっかけは人間関係であったり、何かができないであったりといったこともあるが、なぜ不登校になるのか。また、岡山市は不登校が多いが、なぜ不登校が多いのかという原因を見つけ出すのがなかなか難しいということが特徴的だった。
	石井小学校はイメージの授業を見せてもらったが、図工のイメージでは子どもたちは英語を本当によくしゃべっていた。高学年になるとよくしゃべれるようになっていく。
石井委員	○ 40校行かれる中で、お伺いすると、よくできている学校だけではなくて、なかなか取組が難しい学校も見させていただいた上で、そこで新しい取組が進んでいることは非常に良いことだし、それが教育長と現場の校長先生方、先生方でいろいろなことが共有されていくのも非常に良いことだと思う。不登校の問題についてはいろいろ

	<p>ろな事例があって、まとめたり、パターン化したりできないこともあるのだと思うが、何とか結果が良くなる方向で、何ができるのかという研究を進めていけば良いと感じた。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 7番の英語教育推進指定校の授業研究会で、位置づけと内容の概要について説明願いたい。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 9月28日に行った英語教育推進指定校授業研究会について説明する。 これは毎年小学校1校、中学校1校、英語教育の授業研究をしていただくということで、こちらからお願いして、全校に案内をし、県外から大学関係のスーパーバイザーをお招きして研究会をするものである。今年度は、桑田中学校と操明小学校にお願いし、1学期に1回、それから2学期、3学期にかけて1回ずつ、小・中学校で合計4回授業公開をして研究をしていくものになっている。今回はそこにあるように、小・中学校の教員25人の参加をいただいた。割合とすれば、7割、8割が中学校だが、小学校の先生方も来られていたのが成果だという感じがしている。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 小・中学校の先生が参加されているということだが、人数的には25人は多いのか。それとも少ないのか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 50人ぐらい来ても良いという感じもするが、4回開催している中で、その中どこか1回に来ていただければ、このぐらいの数字でも良いという感じはしている。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 必ず1校1回は行けるようになっているのか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ そういう縛りはかけていないが、今回は、中学校で開催したので、やはり中学校の参加者が多かったようだ。小学校で行うときには、小学校の先生方がやはり行きやすい。小中連携を進めている中で、もう少し校種間の授業を見ていただくことを呼びかけていきたいと思っている。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ その英語教育に関しては、中学校の教員の参加は、英語科の教員ということか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 英語科の教員である。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 小学校の教員にとっては、小学校英語が教科化されるというようなすごい目標もあったりすると思うが、中学校の教員の場合の今の一番の課題は何なのか。小・中学校の接続のこともいろいろあるのだろうが、話題としてはどういうことが出ているか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 1つ大きな課題と我々が捉えているのは、授業の中で英語を使って授業することは国全体が言っているわけだが、その使用頻度、それから、そういうふうな英語力を持った先生方をもっと増やしていかなければならないということが1点である。教員の英語力の向上。それがひいては子どもたちの英語力にもつながるものという課題をイメージしているところである。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>もう一つ大きなのは、今後、小学校で英語活動から教科に変わっていく中で、どういふふうな受け入れ方をするのかということで、これは小学校の校長会からもご提案いただいて、私も同じような言い方をしますが、文法が違ふとかつづりが違ふとかいふふうな細かいことを子どもたちに求めるのではなくて、英語好きな子どもたちを受け入れて、その中でしっかりした英語の力をつけていかなければいけない。したがって、小学校の英語活動が英語の教科になったときの指導について、批判をしないということを今、皆さんに呼びかけ合っているという段階である。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 場所のことや日程のことがあると思うが、4回の授業研究会の内容はまとめてどこかで広報して課題意識を持ってもらったりするのか。それとも4回はそれぞれがやって終わりというものなのか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 今のところ、それぞれでやって終わりという内容だが、小学校、中学校ともに1回目やって2回目やってと、これの継続性は考えていっているところで、本来であれば、それぞれ両方出ただけであれば、もっと実のある部分になるというところはあると思う。</p>
	<p>それから、英語教育について申し上げれば、指定校授業以外に小学校で以前からやっていたり、先程の石井小学校や岡山中央小学校の先進事例も、年2回の公開をやっていたり、それから小学校には別途スーパーバイザーを派遣するような取組もやっていたりするので、いろいろと研修をしていただく機会は持っているが、それをどう関連づけて有機的に機能しているかというところは、今後また追求していく必要があるかなと思うが、余り時間がない。</p>

藤原委員	○ 今、指導課長が言われたことが聞きたかった。集約の仕方と現場の、少ない時間とか忙しさの中で、どの程度効率良くいけるかは、やっぱり先進事例をうまく活用することにあると思うので、何か工夫があったら良いなと思った。
塩田委員	○ スーパーバイザーが来られて、いろいろ見ていかれると思うが、こういった先進校ではない普通の学校での取組に対して、どういう視点からアドバイスをされているのか。
指導課長	○ 今回来ていただいたスーパーバイザーの方に対する感想が手元にあるので、主なものをご紹介したいと思う。皆さん、衝撃的だという内容、全然違う視点からの指導だったので良かったという内容である。文法指導のタイミングや正確さも大切だが、英語を使うことに対して抵抗なく取り組めるような働きかけというふうなものを話していただいたとかいう内容を感想としていただいているので、やはり違った視点で広い視野でお話をしていただく機会はあっていいのかなという感じがした。
塩田委員	○ 来られていた先生たちも、そういうことだと不安を払拭できるのかなと思う。
石井委員	○ そもそも話で申しわけないが、今後、小学校で英語が授業化されるときに、中学校の1年生のレベルの求められる基準は、小学校で勉強したからこれまで以上に高くなるということではなくて、全く同じ基準ということか。
指導課長	○ 来年度から2年間が移行期間ということで、本格的に小学校に教科として英語が入るための準備をしていく。その移行期間については、慣れ親しむと。子どもたちが英語嫌いではなくて、英語が好きになった状態で中学校へ上げていくことを国も言っているし、先日の小学校の校長会でもお願いしたところである。2年間それでやってみて、教科として導入されたときには、今度は身につけるだけの力というものが明らかに示されるので、それに向けて小学校はやっていただく。それを受けて中学校がさらに積み上げていくという形にはなるかと思う。今、ある程度の具体的なラインが示されているが、その準備をこれから進めていくと考えている。
石井委員	○ これからということか。
指導課長	○ そのとおり。
藤原委員	○ 文法とか単語とか、そういうことにこだわり過ぎたから、日本の英語はしゃべることができない英語だとか、使えない英語だという風潮がある。しかし、企業ですごく活躍して英語を使っている人たちの発言を聞くと、日本の中学校英語はすばらしと言っていた。だから、余り文法を軽視するとか、しゃべることができれば良いとか、楽しむ英語で良いとかいう風潮にだけはなあってほしくない。行き過ぎて、振り子が振れ過ぎるともったいないかなという気がする。 私たちはしゃべることができない世代だから何とも言えないが、しかし、世界で使っている日本人が期せずして言うのは、やっぱり中学校英語が基本だと。あれがあれば、あとは応用動作でいくのだから大事にしてほしいというのはあちこちで聞いたことがある。英語の先生はそういうふうには思っていないだろうが、今までの中学校英語で指導していることも大事にしていけないと思う。
藤原委員	○ 公民館のところのワークショップだが、これはどんな市民が集まられたのか。公民館関係者なのか、一般市民なのか。
生涯学習課長	○ 10月7日土曜日に公民館でワークショップをさせていただいた。全部で20名の方に参加いただいたが、その20名の中には、公民館の職員も若干いたし、それから市議会議員もいらっしやった。ただ、それは数名なので、ほとんどの方が一般の市民の方という形で、4グループに分けてワークショップを行っている。2部構成にしており、1部では公民館全体について考えていただくような機会にし、2部では、中央公民館にかわる新たな組織についてのご意見をいただいたところである。 詳細な内容については、改めてご報告はさせていただこうとは思っているが、少しだけ申し上げると、いわゆる地区館を先導するような事業が必要であるとか、それから館同士の情報共有とか横のつながりとか、そういった面でのご意見があったところである。
藤原委員	○ 中央公民館のあり方に特化したような意見は出なかったのか。
生涯学習課長	○ 2部では、中央公民館のあり方というか、新しい組織についての必要なものは何かということでテーマを設定し、皆さんで考えていただいた。
藤原委員	○ また別の機会があると言われたので、そのときに教えてほしい。

教育長 全委員 教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ よろしいか。</li> <li>○ &lt;承認&gt;</li> <li>○ では、事業報告を終わる。</li> </ul>
7 議事の概要	
教育長 教育長 教育長 全委員 教育長 全委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 10月定例岡山市教育委員会を開催する。</li> <li>○ 本日の傍聴希望者はいない。</li> <li>○ 日程第1、会期は本日1日限りとしてよいか。</li> <li>○ &lt;承認&gt;</li> <li>○ 日程第2、9月の定例会の議事録があるので、問題がなければご署名願う。</li> <li>○ &lt;承認&gt;</li> </ul>
教育長  教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日程第3、事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)</li> <li>○ 本日の定例会に付議事件の提出はなく、予定した日程はこれで終了である。 以上をもって、10月定例教育委員会を閉会する。</li> </ul>

傍聴の状況		
報 一	道 般	0名 0名